

M3T-PD308F, M3T-PD30F ご使用上のお願い

M16Cファミリ M32C/80, M16C/70シリーズ用エミュレータデバッガ M3T-PD308FおよびM16Cファミリ M16C/60シリーズ用エミュレータデバッガ M3T-PD30Fの使用上の注意事項を連絡します。

- MR STKコマンドを使用する際の注意事項
- カバレッジウィンドウ、CV FUNC、CV TOTALコマンドを使用する際の注意事項

1. 該当製品

M3T-PD308F V.1.00 Release 1 ~ V.2.00 Release 1
M3T-PD30F V.1.00 Release 1

2. MR STKコマンドを使用する際の注意事項

2.1 内容

"MR STK, SYS" または "MR STK, TSK" コマンドを使用して、タスクのスタック使用量を計測すると不正な値が表示されます。

2.2 回避策

以下の手順でスタック使用量を計算してください。

1. "MR STK, SYS" または、"MR STK, TSK [, タスクID]" コマンドを実行して計測するタスクのスタック領域を確認してください。

[例：タスクIDが4のタスクのスタック領域を確認する場合]

```
-----  
>MR STK, TSK, 4  
[ 4] _task4 (00113AH-00119DH) : 0.00% <- スタック領域(00113AH-  
Stack size(used) is 0 bytes. 00119DH)  
Stack size(whole) is 100 bytes.  
-----
```

2. [M3T-PD308Fの場合]

"CV BASE ,スタック開始アドレス" コマンドで、カバレッジ計測範囲を上記1.で確認した

スタック領域が入るように設定してください。

※ カバレッジ計測範囲は256KB単位で設定されます。

[例]

```
-----  
>CV BASE, 00113A  
-----
```

※ 上記のようにコマンドを入力すると、指定アドレス(113AH)を含む256KBの範囲(0~3FFFF)が設定されます。

[M3T-PD30Fの場合]

カバレッジ計測範囲の設定はありません。

3. "CV CLEAR" コマンドを実行してカバレッジ計測内容を初期化してください。
4. スタック使用量を計測する区間のプログラムを実行してカバレッジを計測してください。
5. "CV LOCAL, 開始アドレス, 終了アドレス" コマンドを実行して計測結果を表示してください。

[例 : 00113A~00119Dのカバレッジ計測結果を表示する]

```
-----  
>CV LOCAL, 113A, 119D  
  + 0.....1.....2.....3.....  
  ADDRESS.>  
0123456789ABCDEF0123456789ABCDEF0123456789ABCDEF0123456789ABCDEF  
  
001100  
001140  
001180      *****  
-----
```

[注意事項]

- (1) CV LOCALでアドレスを指定するときは、開始アドレスに偶数番地を、終了アドレスに奇数番地を指定してください。
 - (2) カバレッジ計測は2バイト単位で行われます。奇数番地のみ、あるいは偶数番地のみがアクセスされた場合でも両方の番地がアクセスされたように見えますのでご注意ください。
6. カバレッジ計測結果の表示で、'*'が表示されているアドレスは、アクセスされたことを示します。
この場合、スタックの先頭である119DH番地から、1188H番地までアクセスされている

ので、実行時に使用されたスタックは22バイトとなります。

2.3 恒久対策

本内容は、次期バージョンアップの際に改修する予定です。

ページの先頭へ

M3T-PD308F, M3T-PD30F ご使用上のお願い
MAECT-M3T-PD308F-030301D

3. カバレッジウィンドウ、CV FUNC、CV TOTALコマンドを使用する際の注意事項

3.1 内容

カバレッジウィンドウ、CV FUNCおよび、CV TOTALコマンドでカバレッジを表示した場合、不正なカバレッジ表示がされることがあります。

3.2 発生条件

以下に示すいずれかの条件を満たす場合に発生します。

- (1) カバレッジウィンドウ、"CV FUNC" コマンドで表示される関数の開始アドレスが奇数番地か、または、終了アドレスが偶数番地である。
- (2) "CV TOTAL" コマンドで指定した開始アドレスが奇数番地か、または、終了アドレスが偶数番地である。

3.3 回避策

CV TOTALコマンドを使用して、開始アドレスに偶数番地、終了アドレスに奇数番地を指定し、カバレッジを表示してください。

[例：開始アドレス=00100A0、終了アドレス=00100FFを指定]

```
-----  
>CV TOTAL, 00100A0, 00100FF  
-----
```

※ カバレッジ計測は2バイト単位で行われます。奇数番地のみ、あるいは偶数番地のみがアクセスされた場合でも両方の番地がアクセスされたように見えますのでご注意ください。

3.4 恒久対策

本内容は、次期バージョンアップの際に改修する予定です。

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。
ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

© 2010-2016 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.